

重点措置区域である県等においては、催物の開催制限の目安、施設の使用制限等の留意事項に基づき、適正な運用を実施されたい。また、いわゆる「ゴールデンウィーク」に向けた取組の留意事項を示すので、関係各府省庁及び各都道府県においては、必要な協力・周知等を実施されたい。

事 務 連 絡
令和３年４月１６日

各都道府県知事 殿

各府省庁担当課室 各位

内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長

基本的対処方針に基づく催物の開催制限、施設の使用制限、いわゆる「ゴールデンウィーク」に向けた取組等に係る留意事項等について

今般、埼玉県、千葉県、神奈川県及び愛知県（以下「４県」という。）を対象に、新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成24年法律第31号。以下「法」という。）第31条の４第１項に基づくまん延防止等重点措置を実施する等のため、基本的対処方針を改定したところ、都道府県対策本部において法に基づく適正な運用がなされるよう、令和３年４月１日付け事務連絡に加え、下記のとおり、４県における催物の開催制限、施設の使用制限、いわゆる「ゴールデンウィーク」に向けた取組等に係る留意事項等を示す。感染状況に応じたイベント開催制限等の概要は別紙１、イベント開催時の必要な感染防止策は別紙２のとおり。

なお、感染状況や新たな知見が得られる等の状況に応じ、通知内容を見直す場合がある。また、まん延防止等重点措置終了後の取扱いについては、別途通知する。

記

１．４県における催物の開催制限

（１）催物の開催制限の目安等

- ・ ５，０００人を上限とすること。
- ・ 上記人数要件に加え、収容率の目安として、令和２年１１月１２日付け事務連絡１．（１）②のとおり取り扱うこと。なお、大声での歓声、声援等が想定される催物については、異なるグループ又

は個人間では座席を一席は空けることとしつつ、同一グループ（５名以内に限る。）内では座席等の間隔を設ける必要はないこと。すなわち、参加人数は、収容定員の５０％を超えることもありうる。具体的には、４県が個別イベントの態様に応じて判断すること。

- ・ また、地域の行事、全国的・広域的なお祭り、野外フェス等については、令和２年１１月１２日付け事務連絡１．（２）のとおり取り扱うこと。

（２）留意事項

① 営業時間短縮等の働きかけ

４県においては、営業時間の目安について、地域の感染状況、施設の要請・働きかけ等を踏まえ、各知事が適切に判断すること。

② ４県に係る本目安の取扱い

上記の（１）及び（２）①について、以下のとおり取り扱うこと。

- ・ 本目安は、本事務連絡が発出された日から最大４日間（４月１７日～２０日）の周知期間を経て、その翌日（遅くとも４月２１日）から適用すること。具体的には、チケット販売時期等に応じ、次のとおりとすること。

（Ⅰ） 周知期間終了時点（遅くとも４月２０日）までにチケット販売が開始された催物（優先販売など、名前の如何に関わらず、何らかの形で販売が開始されているもの）

周知期間終了までに販売されるチケットは、従来、４県が適用していた目安を超えない限りにおいて、上記（１）及び（２）①は適用せず、キャンセル不要と扱うこと。ただし、周知期間終了後（本目安が適用された日）から、本目安を超過するチケットの新規販売を停止すること。

（Ⅱ） 上記周知期間終了後に販売開始されるもの

上記（１）及び（２）①によること。

③ 年度初めに向けて行われる行事について

令和３年２月２６日付け事務連絡１．（２）④のとおり取り扱うこと。

④ 人数上限及び収容率要件の解釈について

上記の人数や収容率の要件の解釈については、令和３年２月２６日付け事務連絡１．（１）②のとおり取り扱うこと。

2. 4 県における施設の使用制限等

(1) 法に基づく営業時間の短縮等の要請を行う施設

以下に掲げるものについては、基本的対処方針三（３）７）に基づき、知事が定める期間及び区域において、以下のとおり取り扱うこと。

なお、地域の感染状況等に応じて、知事の判断により、知事が定める区域以外の地域において、飲食店等に対する営業時間の短縮の要請を行うこと。また、関係機関とも連携し、営業時間の短縮等や業種別ガイドラインの遵守を徹底するための対策・体制の強化を行い、原則として措置区域内の全ての飲食店等に対して実地において、働きかけを行うこと。

① 飲食店（第１４号）

原則として、２０時までの営業時間の短縮（酒類の提供は１１時から１９時まで）を要請すること。

地域の感染状況等に応じて、知事の判断により、「入場をする者の整理等」「入場をする者に対するマスクの着用の周知」「感染防止措置を実施しない者の入場の禁止」「会話等の飛沫による感染の防止に効果のある措置（飛沫を遮ることができる板等の設置又は利用者の適切な距離の確保等）」等、法施行令第５条の５に規定される各措置について飲食店に対して要請すること。

業種別ガイドライン（特に基本４項目。アクリル板等（パーティション）の設置又は座席の間隔の確保、手指消毒の徹底、食事中以外のマスク着用の推奨、換気の徹底）を遵守するよう要請を行うものとする。その際、ガイドラインを遵守していない飲食店等については、個別に要請を行うことを検討すること。

② 遊興施設（第１１号）のうち、食品衛生法上における飲食店営業許可を受けている飲食店（次の（２）に示す施設を除く。）

前記①と同様の要請を行うこと。なお、ネットカフェ・マンガ喫茶等、夜間の長時間滞在を目的とした利用が相当程度見込まれる施設に該当する場合は、営業時間短縮要請の対象にしないこと。

③ その他留意すべき要請事項

いわゆる昼カラオケ等でクラスターが多発している状況に鑑み、飲食を主として業としている店舗において、カラオケを行う設備を提供している場合、当該設備の利用自粛を要請すること。

なお、本事務連絡では、いわゆる昼カラオケ等でのクラスター事例が多発していることから、例えば、昼営業のスナック、カラオケ喫茶等における設備の利用自粛等を想定しており、カラオケボックス等への要請を想定するものではないことに留意されたい。

(2) ①と同様に営業時間の短縮等の働きかけを行う施設

基本的対処方針三(3)7)のとおり、不要不急の外出自粛を徹底すること及び施設に人が集まり、飲食につながることを防止する必要があること等を踏まえ、飲食店等以外の施行令第11条第1項に規定する施設(特に大規模な集客施設)について、以下のとおり取り扱うこと。

① 催物の開催制限に係る集客施設

運動施設、遊技場、劇場、観覧場、映画館、演芸場、集会場、公会堂、展示場、博物館、美術館、図書館、ホテル又は旅館(集会の用に供するものに限る。)への使用制限の働きかけの目安は、以下の通りとする。なお、本事務連絡1.(2)②を準用すること。

ア) 人数上限の目安

本事務連絡1.(1)に準じること。

イ) 収容率の目安

本事務連絡1.(1)に準じること。

ウ) 営業時間その他の働きかけ

4県においては、基本的対処方針三(3)7)のとおり、「不要不急の外出自粛を徹底すること及び施設に人が集まり、飲食につながることを防止する必要があること等」から、飲食店以外の施設(特に大規模な集客施設)についても、「営業時間や入場整理等について同様の働きかけを行うこと」とされていることを踏まえ、各知事が適切に判断すること。

エ) 重点措置区域の県になった場合の取扱い

実証調査中において、当該県が特定都道府県又は重点措置区域である都道府県となった場合には実証を終了し、前記1.(1)に基づく新しい目安を準用すること。(ただし、前記1.(1)を超えるチケットを販売している場合は、チケットの新規販売を停止した上で、実証内容は継続すること。)

② 前記①に該当しない集客施設

4県においては、遊興施設のうち前記(1)②に該当しない施設、物品販売業を営む店舗、サービス業を営む店舗への使用制限について、基本的対処方針三(3)7)のとおり、「不要不急の外出自粛を徹底すること及び施設に人が集まり、飲食につながることを防止する必要があること等」から、飲食店以外の施設(特に大規模な集客施設)についても、「営業時間や入場整理等について同様の働きかけを

行うこと」とされていることを踏まえ、各知事が適切に判断すること。

3. 4 県における外出の自粛等

4 県は、営業時間の変更を要請した時間以降、飲食店にみだりに出入りしないよう、住民に対して要請等を行うこと。併せて、日中も含めた不要不急の外出・移動の自粛、混雑している場所や時間を避けて行動すること及び感染対策が徹底されていない飲食店の利用を自粛すること等について、住民に対して協力の要請を行うこと。その際、変異株による感染が増加していることを踏まえ、他の地域への感染拡大を防止する観点から、不要不急の都道府県間の移動は極力控えるように促すこと。

4. いわゆる「ゴールデンウィーク」における感染拡大防止に向けた取組強化について

これまでも、お盆、年末年始等、人の移動が活発化する時期に際して、そうした移動の活発化が感染拡大につながらないように、感染状況に応じて、留意事項を周知してきたところである。現下の感染状況に鑑み、ゴールデンウィークにおける感染拡大防止に向けた取組強化をとりまとめたので、各都道府県、関係各府省庁等においては、関係団体、職員等の関係各所に対し、以下の内容（別紙 3 及び別紙 4 参照）を周知徹底するとともに、本件に記載された取組の強化を推進されたい。

（1）移動・往来、帰省

ゴールデンウィークは人の移動が活発化する時期であり、変異株による感染が増加している中、他の地域への感染拡大を防止する観点から、特に移動・往来、帰省に際しては、感染防止策を徹底することが求められる。都道府県におかれては市区町村及び都道府県民への周知等を、関係各府省庁におかれては関係団体への周知等をそれぞれお願いする。また、各都道府県及び関係各府省庁におかれては、所属する職員等に、移動・往来及び帰省の留意事項を注意喚起し、感染防止のための取組を徹底されたい（別紙 3 参照）。

（2）飲食店等

感染リスクが高いと指摘されている飲食の場における感染防止策を強化・徹底するため、関係各府省庁及び各都道府県においては、以下の取組を推進されたい（別紙 4 参照）。

- 飲食店・歓楽街の店舗に対し、自己点検の上、業種別ガイドラインを遵守徹底する取組を促すこと。その際には、感染防止策の代表的

なポイント（例えば、アクリル板の設置又は座席間隔の確保、食事中以外のマスク着用の推奨、手指消毒の徹底、換気の徹底）等に留意し、自己点検の実施を促すこと

- 措置区域では、基本的対処方針三（３）７）のとおり、原則として全ての飲食店等に対して実地に働きかけを行うこととされているところ、特に、GW中に多数の来客が予想される店舗を優先的に見回り調査を実施すること
- その他の地域でも、基本的対処方針三（３）８）及び令和３年３月２９日付け事務連絡のとおり、都道府県による飲食店における感染症対策の見回り調査を行うための体制を構築いただく、又は、既に見回り調査が行われている都道府県におかれては、その継続、必要に応じた強化を求めているところ、ゴールデンウィーク中の感染拡大を防止する観点から、特に、観光地・集客施設周辺の飲食店に対し、優先的な見回り調査等により、感染防止策を強化・徹底すること

（３）イベント・集客施設（遊園地・観光施設等）・伝統行事（お祭り等）

これまでの事務連絡で示した催物の開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項に加え、以下の点に留意し、ゴールデンウィーク期間中など、人の移動が活発化する場合には、不特定多数の密集等で感染防止策が徹底されない場合には、当該期間に急速な感染拡大が生じ得る懸念があることから、各都道府県においては、これまでより慎重な判断・要請を行われたい（別紙４参照）。

- 感染が拡大している地域
 - ✓ 感染防止策が徹底されない場合は、イベント開催の自粛を要請すること
 - ✓ 感染拡大の状況に応じ、開催方法の変更（規模縮小、無観客化、分散開催）や延期・自粛等を要請すること
 - ✓ 開催する場合は後記「その他の地域」で示した感染防止策の徹底を要請すること
 - その他の地域
 - ✓ 参加人数の制限の遵守や入場整理（規制入退場、動線管理、雑踏警備等）の強化などにより、密集回避・感染防止策の徹底を要請すること
- 具体的には、①基本的な感染防止策を徹底すること（マスク着用、手指消毒、換気の徹底、大声禁止、会場での飲食制限な

ど、別紙２に示した感染防止策)、②お祭り等では食べ歩きを控えていただき、持ち帰りを推奨すること、③イベント開催前後の直行・直帰の呼びかけなど、イベント参加前後に感染リスクの高い行動を控えるように強く呼び掛けることなどが想定されるが、こうした取組を通じ、感染防止策の徹底、三密の徹底した回避等を行い、感染拡大防止を図ること。

(4) 大規模小売店、商業施設

令和３年４月９日付け事務連絡のとおり、大規模集客施設・商業施設等において、オープニングセレモニーその他の集客活動が行われる場合には、都道府県は、感染状況に応じて、催物の開催制限に係る人数制限、感染防止策の徹底、入場整理等の遵守を適切に要請・指導等することが望ましい旨、周知しているところであるが、これに加え、ゴールデンウィークに向けた取組強化として、各都道府県は、密集を回避する観点から、以下の点を周知・要請されたい（別紙４参照）。

- 感染が拡大している地域
 - ✓ 密集回避・感染防止策を徹底するため、ゴールデンウィーク中の催物・バーゲンセール等は延期・自粛などを要請すること
- その他の地域
 - ✓ ゴールデンウィークの催物・バーゲンセール等は人数制限等、感染防止策の徹底を要請すること

感染状況に応じたイベント開催制限等について

	収容率※ 4	人数上限※ 4	営業時間 短縮
緊急事態宣言 対象地域	50%	5,000人	20時まで
まん延防止等 重点措置	大声なし※ 1 100%以内 大声あり※ 2 50%以内 注：エビデンスに基づく収容率 緩和を検討	(まん延防止等重点措置の都道府県) 5,000人	都道府県の 判断
経過措置 (約 1 か月)		5,000人 又は 収容定員50%以内 (≤10,000人) のいずれか大きい方 注：大規模施設の実証調査を実施。実証開始前10,000人 →実証時20,000人に緩和。ただし、まん延防止等重点 措置の適用中は対象外とする。	
その他都道府県		5,000人 又は 収容定員50%以内 のいずれか大きい方※ 3 注：エビデンスに基づく人数上限緩和を検討	なし

※ 1 大声での歓声、声援等がないことを前提とする場合。

※ 2 大声での歓声、声援等が想定される場合等。異なるグループ間では座席を 1 席空け、同一グループ（5 人以内に限る。）内では座席間隔を設けなくともよい。すなわち、収容率は50%を超える場合がある。

※ 3 施設の使用制限は、収容率要件など、必要な感染防止策を働かせる（人数上限なし）。

※ 4 収容率と人数上限でどちらか小さいほうを限度（両方の条件を満たす必要）。

(1) 徹底した感染防止等（収容率50%を超える催物を開催するための前提）

①	マスク常時着用の担保	・マスク着用状況を確認し、個別に注意等を行い、マスクの常時着用を求める *マスクを持参していない者がいた場合は主催者側で配布・販売を行い、マスク100%を担保
②	大声を出さないことの担保	・大声を出す者がいた場合、個別に注意等ができるもの *隣席の者との日常会話程度は可（マスクの着用が前提） *演者が歌唱等を行う場合、舞台から観客まで一定の距離を確保（最低2m）

(2) 基本的な感染防止等

③	①～②の奨励	・①～②は、イベントの性質に応じて可能な限り実行（ガイドラインで定める） *マスク着用状況が確認でき、着用していない場合は個別に注意等を行うこと *大声を出す者がいた場合等、個別に注意等を行うこと（例：スポーツイベント等ではラッパ等の鳴り物を禁止すること等）
④	手洗	・こまめな手洗の奨励
⑤	消毒	・主催者側による施設内（出入口、トイレ、ウイルスが付着した可能性のある場所等）のこまめな消毒、消毒液の設置、手指消毒
⑥	換気	・法令等を遵守した空調設備の設置、こまめな換気
⑦	密集の回避	・入退場時の密集回避（時間差入退場等）、待合場所等の密集回避 *必要に応じ、人員の配置、導線の確保等の体制を構築するとともに、入場口・トイレ・売店等の密集が回避できない場合はそのキャパシティに応じ、収容人数を制限
⑧	身体的距離の確保	・大声を伴う可能性のあるイベントでは隣席との身体的距離の確保。具体的には、同一の観客グループ間（5名以内に限る。）では座席を空けず、グループ間は1席（立席の場合1m）空ける。 ・演者が発声する場合には、舞台から観客の間隔を2m確保 ・混雑時の身体的距離を確保した誘導、密にならない程度の間隔（最低限人と人とが触れ合わない程度の間隔）

イベント開催時の必要な感染防止策②

(2) 基本的な感染防止等 (続き)

⑨	飲食の制限	・ 飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食の制限 ・ 休憩時間中及びイベント前後の食事等による感染防止の徹底 ・ 過度な飲酒の自粛 ・ 食事は長時間マスクを外すことが想定され、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、収容率が50%を超える場合、飲食可能エリア以外（例：観客席等）は原則自粛。 （発声がないことを前提に、飲食時以外のマスク着用担保、会話が想定される場合の飲食禁止、十分な換気等、一定要件を満たす場合に限り、食事可。）
⑩	参加者の制限	・ 入場時の検温、入場を断った際の払い戻し措置 * ただし、発熱者・有症状者の入場は断る等のルールをイベント開催前に明確に規定し、当該規定を十分周知している場合は払い戻し不要。
⑪	参加者の把握	・ 可能な限り事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握 ・ 接触確認アプリ（COCOA）や各地域の通知サービスの奨励 * アプリのQRコードを入口に掲示すること等による具体的な促進措置の導入
⑫	演者の行動管理	・ 有症状者は出演・練習を控える ・ 演者・選手等と観客が催物前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じるとともに、接触が防止できないおそれがあるイベントについては開催を見合わせる ・ 合唱等、声を発出する演者間での感染リスクへの対処
⑬	催物前後の行動管理	・ イベント前後の感染防止の注意喚起 * 可能な限り、予約システム、デジタル技術等の活用により分散利用を促進
⑭	ガイドライン遵守の旨の公表	・ 主催者及び施設管理者が、業種別ガイドラインに従った取組を行う旨、HP等で公表

(3) イベント開催の共通の前提

⑮	入退場やエリア内の行動管理	・ 広域的なこと等により、入退場や区域内の行動管理ができないものは開催を慎重に検討 * 来場者の区画を限定、管理した花火大会などは可。具体的には、①身体的距離の確保、②密集の回避、③飲食制限、④大声禁止、⑤催物前後の行動管理、⑥連絡先の把握等を担保することが求められる。
⑯	地域の感染状況に応じた対応	・ 大規模イベントは、事前に収容率制限等も含めて都道府県と相談 ・ 地域の感染状況の変化があった場合は柔軟に対応

※上記のうち、基本的な感染防止等が徹底されていない場合、従来の目安（人数上限5,000人又は収容率要件50%のいずれか小さいほう）を原則として、各都道府県が個別のイベント開催について適切に判断すること。

ゴールデンウィークに向けた感染拡大防止策への協力をお願いについて

【別紙3】

移動・往来、帰省

- ・ **感染が拡大している地域**（首都圏、関西圏、宮城県、沖縄県等）にお住まいの方は、日中を含め、**不要不急の外出や移動は避け、近場の外出でも、三密は避けてください**。また、こうした地域との**往来**については、**延期、自粛、オンライン帰省の活用をお願いします**。
 - ・ **その他の地域でも、帰省・旅行、不特定多数が集まる場**（イベント・集客施設等）に行くことは**慎重な検討をお願いします**（特に発熱等の症状がある方などは**厳に控えてください**）。
 - ・ どうしても帰省する必要のある場合は、帰省までの間、感染リスクが高い場所に行くことを控え、大人数の会食を控えるなど、高齢者への感染につながらないように注意をお願いします（※）。
- （※）手指消毒やマスク着用の徹底、大声を避ける、十分な換気を行う、対人距離を確保する等、**基本的な感染防止対策の徹底**
- ゴールデンウィーク中の同窓会をはじめ、会食する場合には、**できるだけ、家族か、4人までで、「感染リスクを下げながら会食を楽しむ」工夫の徹底**

ゴールデンウィークに向けた都道府県・事業者への取組強化のお願いについて

ゴールデンウィークに向けて、都道府県・事業者の皆様には以下の取組をお願いします。【別紙4】

飲食店に関連する皆さま

- ・ **飲食店・歓楽街の店舗に対し、自己点検の上、業種別ガイドラインの遵守徹底**
- ・ 措置区域では、**原則全店舗を実地調査**。特に、GW中に多数の来客が予想される店舗を優先的に見回り調査
- ・ その他の地域でも、**観光地・集客施設周辺の飲食店に対し、優先的な見回り調査等により、感染防止策を強化・徹底**

イベント・集客施設（遊園地・観光施設等）・伝統行事（お祭り等）に関連する皆さま

- ・ **感染が拡大している地域では、感染防止策が徹底されない場合の自粛や、感染拡大の状況に応じ、開催方法の変更（規模縮小、無観客化、分散開催）や延期・自粛等を要請**
- ・ その他の地域でも、**参加人数の制限の遵守や入場整理の強化などにより、密集回避・感染防止策を徹底**

大規模小売店・商業施設に関連する皆様

- ・ **感染が拡大している地域では、催物・バーゲンセール等は延期・自粛などを要請**
- ・ その他の地域でも、**ゴールデンウィーク中の催物・バーゲンセール等は人数制限等、感染防止策を徹底**

ガイドライン確認の際のチェックリスト

【確認の手順】

- ① 下記の項目について記載されていることを確認し、ガイドライン中の記載ページ及び行を記載。
 (◎必須と考えられる事項、○必須ではないが、推奨される事項)
- ② ガイドライン中に記載しない場合は理由を記載。

		項目	ページ	行	記載しない理由
☐	①	感染リスクが高まる「5つの場面」や接触感染・飛沫感染・マイクロ飛沫感染の経路に応じた、業種別のリスク評価及び感染防止策の実践			(「5つの場面」に部分的にでも該当する点はないか、まずは検討いただければ幸いです。)
☐	②	マスク着用の奨励 咳エチケットの徹底			
☐	③	大声を出さないことの奨励			
☐	④	手洗・手指消毒			
☐	⑤	消毒の徹底			

□	⑥	換気・保湿	◎法令を遵守した空調設備による常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上、かつ、1回に5分以上、又は常時換気。寒冷な場面では室温が下がらない範囲で常時窓開けする等の工夫）。 ◎乾燥する場面では、湿度40％以上を目安に加湿する。 ○必要に応じ、CO2測定装置を設置する等により、換気状況を常時モニターし1000ppm以下（※）を維持することも望ましい。（※機械換気の場合。窓開け換気の場合は目安。） ○換気の補助としてフィルタ式空気清浄機やサーキュレーター併用も可。			
□	⑦	密集の回避	◎休憩時間や待合場所等の密集回避。 ◎密集が回避できない場合はそのキャパシティに応じ、人数制限・導線の確保。			
□	⑧	身体的距離の確保	◎できるだけ2 m（最低1 m）の間隔確保。 ◎列にマークをつける等、身体的距離を確保した整列。			
□	⑨	飲食の制限	◎飲食等による感染防止の徹底。 ◎飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食の制限。 ◎過度な飲酒の自粛。 ◎間隔を空けた座席配置、真正面の座席配置回避、アクリル板等パーティション設置等実施。			
□	⑩	利用者の制限	◎入場時の検温等、有症状者（発熱又は風邪等の症状）の入場を防止する措置			
□	⑪	利用者の把握	◎事前予約制、あるいは入場・入店時に連絡先の把握。 ◎接触確認アプリ（COCOA）や各地域通知サービスの利用奨励。 ◎携帯電話の使用を控える場面では、接触確認アプリ（COCOA）を機能させるため、「電源及びBluetoothをonにした上で、マナーモードにすること」を推奨する。			
□	⑫	従業員の行動管理	◎有症状者（発熱又は風邪等の症状）の出勤自粛。 ◎感染リスクが高まる「5つの場面」、「新しい生活様式」等も活用し、感染予防対策の周知徹底を図る。 ◎ユニフォームや衣服のこまめな洗濯。			

□	⑬ 対面時の接触回避	◎人と人が対面する場所での、身体的距離の確保またはアクリル板・透明ビニールカーテンによる遮蔽。 ◎電子マネー等非接触決済の導入奨励、支払時のコイントレーの使用。 ◎店員・従業員と客が対面する場合、三密の回避、換気の徹底、身体的距離の確保、マスク着用に留意すること。 ◎会議を実施する場合、三密の回避、換気の徹底、身体的距離の確保、マスク着用に留意すること。 ○オフィスにおけるペーパーレス化、デジタル化を推進すること。			
□	⑭ 遠隔での業務の推進	◎事務作業等の場合、業務に支障とならない範囲で、テレワーク等遠隔業務の検討。 ◎会議等を行う場合のオンラインでの実施の検討。			
□	⑮ 共用部での対策	1 休憩スペース ◎一度に休憩する人数の制限、対面での食事や会話の自粛。 ◎休憩スペースの常時換気。 ◎共用する物品（テーブル、いす等）の定期的な消毒。 ◎入退室前後の手洗い。 2 トイレ ◎手洗の徹底。 ◎共通のタオルは禁止し、ペーパータオルを設置するか、従業員に個人用タオルを持参してもらう。 ※なお、ハンドドライヤー設備は、メンテナンスや清掃等の契約等を確認し、アルコール消毒その他適切な清掃方法により定期的に清掃されていることを確認する場合は使用を可とする。 3 ごみ捨て ◎鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人はマスクや手袋を着用する。 ◎マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石けんと流水で手を洗う。			
□	⑯ チェックリスト	◎事業者が、感染防止のために特に重要な事項を認識できるよう、ガイドラインのチェックリストを作成するようお願いします。（必要に応じ、HP公表や配布等での周知も御検討ください。）			

意見聴取した専門家（所属・氏名）	
掲載予定HPのURL	

ガイドライン確認の際のチェックリスト

（別紙１：イベント開催時の感染防止策）

【確認の手順】（◎必須チェック事項、○推奨事項）

- ① A. を参照し、①により実施可能なイベントであること、②が記載されていることを確認。
- ② B. の全項目について記載があれば、今回の緩和措置の対象となる。
※全て記載されていなければ、依然として、５０％と５０００人の少ない方を上限とする。
- ③ C. の全項目についても記載があれば、収容率１００％を上限とする開催が可能となる。
※ただし大声での歓声、声援等がないことを前提としうるものに限る。

A. イベントを実施するための条件			ページ	行	記載しない理由
☐	①	入退場やエリア内の行動管理	◎広域的なこと等により、入退場や区域内の行動管理ができないものは開催を慎重に検討。 ◎来場者の区画を限定、管理した花火大会などは可。具体的には、①身体的距離の確保、②密集の回避、③飲食制限、④大声禁止、⑤催物前後の行動管理、⑥連絡先の把握等を担保することが求められる。		
☐	②	地域の感染状況に応じた対応	◎大規模イベントは、事前に収容率制限等も含めて都道府県と相談。 ◎地域の感染状況の変化があった場合は柔軟に対応。		
B. 9月19日以降の緩和措置を適用するための条件（A及びBの担保が必要）					
☐	③	マスク着用の奨励	◎マスク着用状況が確認でき、着用していない場合は個別に注意等を行う。		
☐	④	大声を出さないことの奨励	◎大声を出す者がいた場合等、個別に注意等を行う（マスクを着用をするなら、近隣の者同士の日常会話程度は問題なし）。 ◎スポーツイベント等ではラッパ等の鳴り物を禁止。 ○大音量のBGMは大声での会話を誘発する可能性があるので、BGMの音量を上げすぎないように留意する。		
※ ③～④は、イベントの性質に応じて可能な限り実行（ガイドラインで定める）					
☒	⑤	手洗・手指消毒	◎こまめな手洗の奨励及びアルコール等の手指消毒液設置。		
☐	⑥	消毒の徹底	◎主催者側による施設内（出入口、トイレ、ウイルスが付着した可能性のある場所）のこまめな消毒。		
☐	⑦	換気・保湿	◎法令を遵守した空調設備による常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上、1回に5分間以上、又は常時換気。寒冷な場面では室温が下らない範囲で常時窓開け）。 ◎乾燥する場面では湿度40％以上を目安に加湿。 ○必要に応じ、CO2測定装置を設置する等により、換気状況を常時モニターし1000ppm以下（※）を維持することも望ましい。（※機械換気の場合。窓開け換気の場合は目安。） ○換気の補助としてフィルタ式空気清浄機やサーキュレーターを併用することも可。		
☐	⑧	密集の回避	◎入退場時の密集回避（時間差入退場等）、休憩時間や待合場所等の密集回避。 ◎人員の配置、導線の確保等、体制構築。 ◎入場口・トイレ・売店等の密集が回避できない場合はそのキャパシティに応じ、目安の人数上限等を下回る制限の実施。		
☐	⑨	身体的距離の確保	◎大声を伴う可能性のあるイベントでは隣席との身体的距離の確保。具体的には、同一の観客グループ間では座席を空けず、グループ間は1席（立席の場合1m）空ける。 ◎演者が発声する場合には、舞台から観客の間隔を2m確保。 ◎混雑時の身体的距離を確保した誘導、密にならない程度の間隔（最低限人と人とが触れ合わない程度の間隔）。		

□	⑩	飲食の制限	◎飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食の制限。 ◎休憩時間中及びイベント前後の飲食等による感染防止の徹底。 ◎食事は長時間マスクを外すことが想定され、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、飲食用に感染防止策を行ったエリア以外では、収容率が50％を超える場合は原則自粛（発声がないことを前提に、飲食時以外のマスク着用担保、会話が想定される場合の飲食禁止、十分な換気等、一定要件を満たす場合に限り、食事可。→⑭～⑯を遵守することが前提）。 ◎過度な飲酒の自粛。			
□	⑪	参加者の制限	◎入場時の検温、有症状（発熱又は風邪等の症状）を理由に入場できなかった際の払い戻し措置等により有症状者の入場を確実に防止する措置を講じる。 ◎但し、次の2点を前提として、ガイドラインに措置を講じる旨の記載を求めることまでは行わない。 【払い戻し措置をガイドライン内に記載しない上での前提条件】 1 発熱者・有症状者（風邪等の症状をていする者）の入場は断る等のルールについてイベント開催前に明確に規定する。 2 当該規定内容の周知が実施までの間に十分に図られる。			
□	⑫	参加者の把握	◎座席指定、動線確保などの適切な行動管理が行われていること。 ◎事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握。 ◎接触確認アプリ（COCOA）や各地域の通知サービスについて、下記も含め奨励。 1 アプリのQRコードを入口に掲示すること等による具体的な促進措置の導入 2 携帯電話の使用を控える場面では、接触確認アプリ（COCOA）を機能させるため、「電源及びBluetoothをonにした上で、マナーモードにすること」を推奨する。			
□	⑬	演者の行動管理	◎有症状者（発熱又は風邪等の症状をていする者）は出演・練習を控える。 ◎演者・選手等と観客が催物前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じるとともに、接触が防止できないおそれがあるイベントについては開催を見合わせる。 ◎合唱等声を発出する演者間での感染リスクへの対処。			
□	⑭	催物前後の行動管理	◎イベント前後の感染防止の注意喚起。 ◎交通機関・飲食店等の分散利用を注意喚起。特に可能な限り、予約システム、デジタル技術等の活用により分散利用を促進。			
□	⑮	ガイドライン遵守の旨の公表	◎主催者及び施設管理者にて、業種別ガイドラインに従った取組を行う旨、HP等で公表。			
□	⑯	PDCAの体制構築	◎クラスター発生時、ガイドライン遵守状況・実効性確保等のPDCAが適切に回る仕組みの構築。 ◎イベント主催者による保健所等への協力。 ◎関係団体が必要に応じて、イベント主催者、保健所等とも連携しながら、感染状況等の実態把握に努める。 ◎実態把握を踏まえたガイドラインの適切な見直しを引き続き行っていく。			
C. 大声での歓声、声援等がなく、食事の伴わない場合で、収容率50％を超える場合の条件（A,B及びCの担保が必要）						
□	⑰	マスク着用の担保	◎マスク着用状況が確認でき、着用していない場合は個別に注意等を行う。 ◎マスクを持参していない者がいた場合は主催者側で配布若しくは販売し、着用率100％を担保。			
□	⑱	大声を出さないことの担保	◎大声を出す者がいた場合、個別に注意等を行う（人員を配置する等）。但し、マスクを着用するなら、近隣の者同士の日常会話程度は問題なし。 ○イベント会場での大音量のBGMは大声での会話を誘発する可能性があるため、BGMの音量を上げすぎないように留意する。 * 大声での歓声、声援等がないことを前提としうるイベントに加え、大声禁止の十分な実績がある場合には、大声禁止の担保措置、適切な行動管理、十分な換気等を前提に、収容率50％を超えることを認める）			
※ ⑰～⑱は、担保のための確実な措置を講じる（例えば常時監視のための人員配置、デジタル技術活用によるリアルタイムモニタリング等）						

D. 食事を伴うが発声がない場合（映画館）で、収容率50%を超える場合の条件（A,B,C及びDの担保が必要）					
☐	⑭	食事時以外のマスク着用担保	◎イベント前に飲食時以外のマスク着用徹底を動画上映・アナウンス等で周知すること。 ◎イベント中の適切な監視体制を構築し、確実なマスク着用を求めること。 ◎着用状況を踏まえ、必要に応じ一層の周知を図ること。		
☐	⑮	十分な換気	◎換気に関し、以下の基準を確保する。 1 二酸化炭素濃度1000ppm以下かつ二酸化炭素濃度測定機器等で当該基準を遵守していることが確認できること。 2 機械換気設備による換気量が30㎡/時/人以上に設定されており、かつ、当該換気量が実際に確保されていること（野外の場合は確認を要しない）。		
☐	⑯	発声が想定される場合の飲食禁止	◎発声が想定される場面（休憩時・イベント前後）の観客席での飲食を禁止すること。		
☐	⑰	食事時間の短縮	◎長時間の飲食が想定されうる場合は、マスクを外す時間をなるべく短くするため、食事時間短縮のための措置を講ずるよう努めること。		
E. 全国的・広域的なお祭り、花火大会、野外フェス等の取扱い（A,B及びEの担保が必要）					
☐	⑱	身体的距離の確保	◎移動時の適切な対人距離の確保（誘導人員の配置等）。 ◎催物中の区画あたりの人数制限、ビニールシート等を用いた適切な対人距離の確保。		
☐	⑲	密集の回避	◎混雑状況のモニタリング・発信。 ◎誘導人員の配置。 ◎時差・分散措置を講じた入退場。		

ガイドライン確認の際のチェックリスト

(別紙2：飲食の感染防止策)

【確認の手順】（◎必須チェック事項、○推奨事項）

- ① 下記の項目について記載されていることを確認し、ガイドライン中の記載ページ及び行を記載。
- ② ガイドライン中に記載しない場合は理由を記載。

項目				ページ	行	記載しない理由
☐	①	マスク着用の奨励 咳エチケットの徹底	◎店舗入口や店内にマスク着用、咳エチケットを掲示・周知。 ◎飲食時等マスク着用していない場合は、会話を控えるよう周知。			
☐	②	大声を出さないことの奨励	◎従業員間での大声を避ける ◎客同士の大声での会話は避けるよ掲示等により注意喚起する			
☐			○BGMが大きいと客同士の会話も大声になるので、BGMの音量調整を検討。			
☐	③	手洗・手指消毒	◎こまめな手洗の奨励及び店舗入口への消毒液の設置。			
☐	④	消毒の徹底	◎施設内共用部（出入口、トイレ、手すり、調味料等、ウイルスが付着した可能性のある場所）のこまめな消毒。 ◎客が入れ替わる毎にテーブルの消毒を実施。			
☐	⑤	換気・保湿	◎法令を遵守した空調設備による常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上、1回に5分間以上、又は常時換気。寒冷な場面では室温が下がらない範囲で常時窓開け）。 ◎乾燥する場面では湿度40％以上を目安に加湿。 ○必要に応じ、CO2測定装置を設置する等により、換気状況を常時モニターし1000ppm以下（※）を維持することも望ましい（※機械換気の場合。窓開け換気の場合は目安）。 ○換気の補助として、フィルタ式空気清浄機やサーキュレーターを併用することも可。			
☐	⑥	密集の回避	◎密集が回避できない場合はそのキャパシティに応じ、人数制限（入店制限）。 ◎店内飲食やテイクアウトで順番待ちをする場合の間隔を開けるよう誘導。 ◎順番待ちが店外に及ぶ場合は、従業員が間隔を保つように誘導するか、整理券の配布などを行い行列を作らないようにする。 ◎導線の確保。			
☐	⑦	利用者の制限	◎入場時の検温等、有症状者（発熱又は風邪の症状をていする者）の入店をお断りする旨の掲示。			

☐	⑧	従業員の行動管理	◎有症状者（発熱又は風邪の症状をている者）の出勤自粛。 ◎従業員は必ず出勤前に体温を計る。発熱や風邪の症状がみられる場合は、店舗責任者にその旨を報告。 ◎ユニフォームや衣服のこまめな洗濯。 ◎濃厚接触者と判断された従業員の就業は禁止。 ◎大声を避け、マスクやフェイスガードを適切に着用し、頻繁かつ適切な手洗いを徹底。 ◎従業員のロッカールームや控え室は換気し、室内は定期的に清掃する。 ◎休息中もマスクを着用するなど工夫する。			
☐	⑨	接客時共通事項	◎料理は個々に提供する。鍋料理や盛り合わせ料理などを提供する場合は、従業員等が取り分けるなど工夫する。 ◎スプーン、箸などの食器の共有、使い回しは避けるよう、掲示などにより注意喚起する。 ◎ビュッフェやサラダバー及びドリンクバーは、利用者の飛沫がかからないように食品・ドリンクを保護する。 ◎トング等は頻繁に消毒もしくは交換するか、または手袋の着用を促す。			
☐	⑩	カウンター席の接触回避	◎カウンター席は密着しないように適度なスペースを空けるか、カウンターテーブルに隣席とのパーティション（アクリル板等）を設置するなどし、横並びで座る人に飛沫が飛ばないように配慮する。 ◎カウンターでは、お客様と従業員の会話を想定し、従業員のマスク着用のほか、仕切りの設置などを工夫する。 ◎カウンターサービスは、可能な範囲で従業員とカウンター席との間隔を保ち、注文を受ける際は、正面に立たないように注意する。			
☐	⑪	テーブル席の接触回避	◎テーブル間は、パーティションで区切るか、できるだけ1 m以上の間隔を空けて座れるように配置を工夫する。 ◎テーブル席は、真正面の配置を避けるか、または区切りのパーティション(アクリル板等)を設ける。 ◎少人数の家族、介助者が同席する高齢者・乳幼児・障害者等が同席する場合で、他グループとの相席は避ける。 ◎他のグループとはできるだけ1 m以上の間隔を空け、店舗内のスペースや構造上、物理的に間隔を空けた席の配置が難しい場合は、パーティションの設置や、スペースに余裕がある場合は斜めでの着席などを工夫。 ◎テーブルサービスで注文を受けるときは、お客様の側面に立ち、可能な範囲で間隔を保つ。			
☐	⑫	会計時	◎食券を販売している店舗は、券売機を定期的に消毒する。 ◎電子マネー等非接触決済の導入奨励。 ◎現金、クレジットカードの受け取りにコイントレイを使用するコイントレイや手指の消毒を徹底）。 ◎飛沫を防止するために、レジと客の間にアクリル板等の仕切りを設置するなど工夫する。			
☐	⑬	テイクアウト	◎事前予約注文を受け付けるなどの仕組みを導入。 ◎テイクアウト客と店内飲食客の接触を避けるため動線を区別。			
☐	⑭	デリバリー	◎配達員と来店客の動線が重ならないように、可能であればデリバリー専用カウンターを設ける。 ◎注文者が希望する場合は、非接触の受渡しを行う。 ◎料理の容器は、配達員が直に触れないよう袋等に入れ、配達に使用する運搬ボックス等は使用の都度、消毒する。			

□	⑮	店舗共用部での対策	1 店内 ◎店内清掃を徹底し、店舗のドアノブ、券売機、セルフドリンクコーナー等の設備等、多数の人が触れる箇所は定期的にアルコール消毒薬、次亜塩素酸ナトリウムで清拭。 ◎テーブル、イス、パーティション、メニューブック、タッチパネル、卓上ベル等についてもお客様の入れ替わるタイミングや繁忙時間帯前後に、アルコール消毒薬、次亜塩素酸ナトリウム、台所用洗剤（界面活性剤）で清拭。 ◎卓上には原則として調味料・冷水ポット等を置かないようにするが、撤去が難しい場合は、お客様が入れ替わるタイミングや繁忙時間帯前後に、アルコール消毒薬、次亜塩素酸ナトリウム、台所用洗剤（界面活性剤）で清拭や用具の交換を行う。 2 トイレ ◎ドアやレバー等の不特定多数が触れる箇所は定期的にアルコール消毒薬、次亜塩素酸ナトリウムで清拭。 ◎手洗いを徹底する。 ※なお、ハンドドライヤー設備は、メンテナンスや清掃等の契約等を確認し、アルコール消毒その他適切な清掃方法により定期的に清掃されていることを確認する場合は、使用を可とする。			
□	⑯	その他	◎鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛る。 ◎ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。 ◎マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石けんと流水で手を洗う。			